



WRC これまでの活動

タビ サルマ / 石塚 辰郎 / 綾瀬 泉 / パナヨティドゥ クリスラ / 堀内隆仁
所属：慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター WRC

WRC では、SFC 生の研究やレポート執筆の相談に乗っています。文章の書き方やプレゼン資料の添削はもちろん、研究のテーマ決め方・進め方をアドバイスしたり、「このデータにはどう分析すべきか」を一緒に考えたり、「こういう文献を読んでみたら？」と提案したり。ときに人生相談のようにもなっていることも・・・！

現 WRC メンバー 5 名の専門分野は、心理学、身体知、認知科学、スポーツ科学、カルチュラル・スタディーズ、多文化共生、異文化間コミュニケーション、社会科学、認識論、建築、都市デザイン、都市計画、都市ゲームと、幅広くカバーしています。相談者のバックグラウンドも SFC らしく様々で、相談の学問分野は多岐にわたります（図 1）。私たちもなるべく広い視野・多様な角度から打ち返そうと努めています。**そのおかげで、私たち WRC 自身が日々成長を続けている**実感があります。この成果として、**相談件数は増加しています**（図 2。2023・2022 年度を月ごとに比較）。研究が佳境をむかえる秋学期の方が多くの相談をもらいます。2021 年度からはメディアセンター 2 階専用ブースとオンライン、ハイブリッドで相談を承っております。

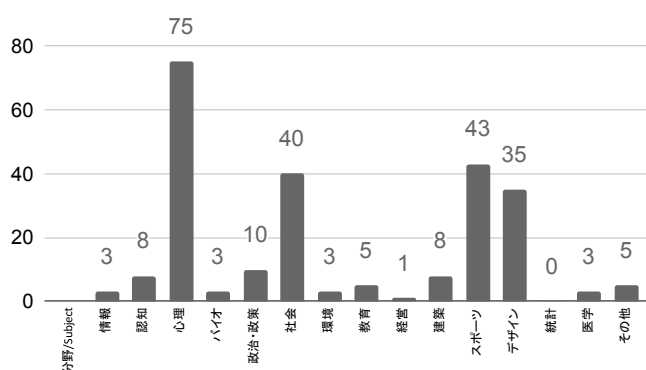


図 1: 相談内容の学問分野

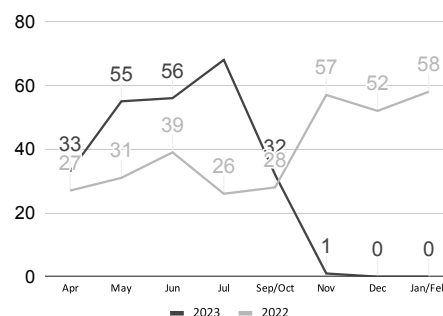


図 2: 相談件数推移の比較(2022, 2023 月毎)

WRC 新たな活動へ：院生どうしの「マッサージ的交流」を先導する

大学院生は不安定な立場にいます。孤独やプレッシャーが常にまとわりつき、つい、どこか身構えてしまいます。心身は硬く凝り固まり、研究活動は鈍ってゆきます。私たち WRC はこの問題へアプローチし、一人ひとりが生き生きとした研究活動ができることを目指して、「SFC 院生どうしの交流」を先導してゆきます。

どのように交流するのか？ ひとつは、「研究のしかた」を自覚し・臆せず披露しあうことだと考えます。**研究のしかたとは、研究活動をやっていくための態度や工夫のことです。そこには、一人ひとりの研究者の、研究者でありながら「一人のひと」としての個性・生き方・人間味が埋め込まれているはず**です。したがって、単に「研究方法論」のことではありません。普段は、必ずしも自らの研究のしかたを自覚していないかもしれません。しかし研究者はみな、その身に「しかた」を抱えているはず。研究のしかたを「Tips」として型どって見て、披露しあってみる。それは自らの身構えを一旦ほぐくことを促すでしょう。「互いにマッサージを施す」ように、凝り固まってしまった心身をほぐしあうようになるでしょう。言うなれば「マッサージ的交流」です。孤独や不安を解消し、自信を得て、学びあいから創造的な着想をしたり、コラボレーションが生まれることも期待されます。こうして SFC 院生一人ひとりが、より生き生きと研究できることを狙います。

この第一歩として、万国博覧会にて、私たち WRC メンバーが自身の研究活動や WRC の活動をとおして培ってきた「研究のしかた」を、Tips としてポスター展示します (@ メディアセンター 1 階)。